質問事項に対する回答書⑭

（件名)磐越自動車道　黒森山トンネル工事

番号	日付	資料の種類	ページ	章の番号等	質問事項	回答
1	10/22	特記仕様書	27～29	27-2、3、4	特記仕様書のｽﾉｰｼｪｯﾄﾞ部の土工については構造物掘削にしか記載がありませんが、割掛対象表参考内訳書では工事用機械分解組立費(ｽﾉｰｼｪｯﾄﾞ)にﾊﾞｯｸﾎｳ-1.0m3とあります。構造物掘削をﾊﾞｯｸﾎｳ-1.0m3で施工する計画でしょうか。その場合、土木工事積算基準に記載がありませんので歩掛を公表願います。	土木工事積算基準（令和6年7月版）第8編1に記載のとおり、第7編をご参照ください。
2	10/22	特記仕様書	29	27-4-(1)	構造物掘削普通部A1において、終点側坑口部の裏込め土量と余剰土の数量が図面からは読み取れませんので、各数量を御教示願います。	構造物掘削 普通部Aのうち、土質区分が軟岩の数量は裏込めとし、土砂の数量は余剰土とお考えください。
3	10/22	設計図(ｽﾉｰｼｪｯﾄﾞ編)	2-3/217		ｽﾉｰｼｪｯﾄﾞ一般図ではｽﾉｰｼｪｯﾄﾞ施工区間に土砂と軟岩が混在するように見えますが、構造物掘削対象として想定されている土質区分をご教示ください。	設計図（土工編）5～12/69のとおりです。
4	10/22	設計図(ｽﾉｰｼｪｯﾄﾞ編)	1/217		打設回数概念図に示されている②の木製型枠での施工となる箱抜は、外壁が突出する非常電話と消火栓が配置されるｽﾊﾟﾝのみで、外壁が突出しない誘導表示板等のｽﾊﾟﾝについては底版と頂版･側壁の2回打設と考えてよろしいでしょうか。	そのとおりです。
5	10/22	設計図(ｽﾉｰｼｪｯﾄﾞ編)	1/217		上記に関連して木製型枠での施工を想定されている打設範囲は外壁が突出する範囲（非常電話の場合でB3.2×H4.1)の部分だけでしょうか、あるいはこの高さ分のｽﾊﾟﾝ全長分(非常電話の場合でB約12.2m×H4.1m)でしょうか。	木製型枠による施工は、外壁が突出する範囲となります。
6	10/22	特記仕様書	16	17-3	「11～15の工事用道路は、人家連担区域等を通過するため、工事用車両運行速度は20km/h以下とする」とありますが、13の町道上小島芝草線の現地を確認するとほとんど人家が見当たりません。間違いありませんでしょうか。	特記仕様書17-3のとおりです。
7	10/22	設計図(ﾄﾝﾈﾙ編)	33/95		起点側坑門の継目工について材料表が記載されていますが、数量総括表及び金抜設計書にはｽﾉｰｼｪｯﾄﾞ分の数量しか計上されていないものと思われますので御確認をお願いします。	継目工に起点側坑門の数量が含まれておりませんでした。 継目工Ⅰ型の数量は681m、Ⅲ型の数量は304mが正となります。 上記については、後日、交付図書を訂正いたします。
8	10/22	数量明細表	(6)	番号59	ｺﾝｸﾘｰﾄA1-3の377.6m3はﾄﾝﾈﾙ工ではなく坑門工の数量と考えてよろしいでしょうか。	そのとおりです。 なお、コンクリートA1-3の数量は380.1m3が正となります。 上記については、後日、交付図書を訂正いたします。
9	10/22	数量明細表	(7)	番号62	ｺﾝｸﾘｰﾄC2-1の99.6m3はﾄﾝﾈﾙ工ではなく坑門工の抱き擁壁の数量と考えてよろしいでしょうか。	そのとおりです。
10	10/22	数量明細表	(7)	番号65	ｺﾝｸﾘｰﾄD1-1の函渠工(ｽﾉｰｼｪｯﾄﾞ)の数量698.8m3が設計図(ｽﾉｰｼｪｯﾄﾞ編)1/217のｽﾉｰｼｪｯﾄﾞ数量総括表の値と一致しませんので御確認をお願いします。	設計図（函渠工編）197～198/217に示す地盤改良工の数量を含んでおります。
11	10/22	数量明細表	(8)	番号72	型枠Cの767.6m2はﾄﾝﾈﾙ工ではなく坑門工の数量と考えてよろしいでしょうか。	そのとおりです。 なお、型枠Cの数量は765.4m2が正となります。 上記については、後日、交付図書を訂正いたします。
12	10/22	数量明細表	(8)	番号74	標準断面部の覆工型枠周長は21.1～21.2m程度、覆工延長は明り巻部を含めたとしても2270m程度で、両者の積は48,000m2程度となるのに対して数量明細表の型枠Tは52,586.7m2と大きく乖離しています。52,586.7m2の内訳（例えばｱｰﾁ部とｲﾝﾊﾞｰﾄ偶部等）を御教示願います。	型枠Tの数量52,856.7m2の内訳は、全断面施工部47,790.9m2、インバート隅角部4,795.8m2となります。
13	10/22	数量明細表	(8)	番号75	非駐帯断面部の覆工型枠周長は23.2m程度、覆工延長は妻壁分を含めたとしても190m程度で、両者の積は4,400m2程度となるのに対して数量明細表の型枠T(L)は4,992.4m2と大きく乖離しています。4,992.4m2の内訳（例えばｱｰﾁ部とｲﾝﾊﾞｰﾄ偶部等）を御教示願います。	型枠T（L）の数量4,992.4m2の内訳は、全断面施工部4,317.8m2、インバート隅角部416.8m2、非常駐車帯妻部257.8m2となります。
14	10/22	数量明細表	(8)	番号76	避難連絡坑の覆工型枠周長は10.3m程度、覆工延長はⅡ期線施工延長全長としても31.8m程度で、両者の積は330m2程度となるのに対して数量明細表の型枠T(S)は403.4m2と大きく乖離しています。403.4m2の内訳（例えばｾﾝﾄﾙ型枠と扉部等）を御教示願います。	型枠T（S）の数量は408.2m2が正となります。 型枠T（S）の数量408.2m2の内訳は、全断面施工部393.5m2、床版コンクリート妻部14.7m2となります。 上記については、後日、交付図書を訂正いたします。
15	10/22	数量明細表	(9)	番号77	鉄筋Aの31.497tはﾄﾝﾈﾙ工ではなく坑門工の数量と考えてよろしいでしょうか。その場合、図面(ﾄﾝﾈﾙ編)35、42、49/95の鉄筋表の合計31.460tと一致しませんので御確認をお願いします。	鉄筋Aの数量は31.443tが正となります。 上記については、後日、交付図書を訂正いたします。